

岡崎市議会議長 様

支出番号	2
------	---

会派名	自民清風会
代表者名	中根 武彦

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政 務 活 動 報 告 書

令和5年12月21日提出

活動年月日	令和5年4月24日（月）～26日（水）		
氏名	野々山雄一郎 野本 篤 前田麗子		
用務先 及び 内 容	1 4月24日	用務先	埼玉県 飯能市
		内 容	エコツーリズムについて
	2 4月25日	用務先	埼玉県 新座市
		内 容	子どもの放課後居場所づくり事業及び新座っ子ぱわーあっぷくらぶについて
	3 4月26日	用務先	東京都 港区 （学校法人山口松陰高校、株式会社Brave group)
		内 容	メタバースの学校「MEキャンパス」について
	4 月 日	用務先	
		内 容	
備 考			

政務活動視察報告書

報告者：野 本 篤

同行者：野々山雄一郎

同行者：前 田 麗 子

【視察概要】

日 時：令和5年4月24日（月） 13：30～15：00

目 的：エコツーリズムの取り組みを学ぶ

視察先：飯能市役所

住 所：埼玉県飯能市双柳1－1

説明者：飯能市産業環境部 観光・エコツーリズム推進課

参事兼課長 吉田昌弘

エコツーリズム担当 主幹 阿久津智弘

主任 村中 翔

【取組の背景】

都心から電車で乗り換えなしの48分。

運賃は463円。

ワンコインリゾートと称される。

観光客の多くが地域と関わりなく帰っていく
観光客による自然環境への悪影響
林業の不況による森林の荒廃
山間地域や市街地の活力低下

身近で豊かな自然観光資源・歴史文化
資源を活かし、地域の活性化や経済振
興に繋げていく施策はないか？

【エコツーリズムの担当部署の設置】

平成16年7月 環境緑水課にエコツーリズム担当を設置

平成17年4月 環境部にエコツーリズム推進室を設置

平成26年4月 観光・エコツーリズム推進課に組織変更

→ エコツーリズムと観光セクションの連携を図る

【エコツーリズム推進協議会】

平成17年5月に協議会を設立

→ エコツーリズム推進法に基づき設置した地域の多様な主体の話し合いの場

構成員 20人以内 → 現在は18人で運営している
学識経験者 商工 観光 農業 林業 漁業 環境保全
歴史・文化 スポーツ・レジャー 関係行政機関職員

- 役 割 ①エコツーリズム推進全体構想の作成及び変更
②エコツーリズム推進に係る連絡調整
③エコツアーの企画及び実施（事前協議）
④エコツアーガイドの養成
⑤エコツーリズムの普及啓発と情報発信

【飯能市エコツーリズム推進全体構想】

全体構想とは・・・自分達の地域の資源をどのように守りながら活用していくかを
まとめたもの

平成21年に全国初となる推進全体構想の認定

- 平成26年 第2版認定
令和3年 第3版認定

全体構想が認定されることのメリット

- ①地域資源の保護・・・特定自然観光資源に指定することで、迷惑行為の禁止などの保護措置を講ずることができる
- ②立入の制限・・・特定自然観光資源が所在する区域への立ち入り人数の制限ができる
- ③ブランド力向上・・・国によって、法の基本理念に基づく、他の地域のモデルとなる取り組みとして認められることになり、地域のブランド力が高まる
- ④広報手段の拡大・・・国により、政府広報、インターネットなど各種媒体を通じて、旅行者やエコツアー事業者、旅行業界団体など各主体に対して周知が図られる

4つの基本方針

- ①飯能市の自然を保全・再生し、文化を継承して将来へ伝える
- ②訪れるたびに新たな発見や変化のある楽しく満足できるエコツアーを提供
- ③すべての地域と住民の参加により、地元への誇りと愛着を育み、地域を元気にする
- ④持続可能な社会を作るため環境意識の向上に取り組む

【飯能エコツアーの特徴】

- ①地域に入り、ありのままの姿をみせるエコツアー

②市域全体で取り組み、地域の人が地域の言葉で地域を案内する

- 飯能市のエコツーリズム推進の**カギ**は「**地域に住む人**」である
エコツーリズムガイドの発掘と養成のための講座の開催

③エコツアーの質を高め、維持する仕組みづくり

- 事前協議制度によりルールを設定し、モニタリングからアンケートをとる

④実施者（市民）のメリット

- 協議会の事務局と相談できる体制によって企画作成のハードルを下げる
エコツーリズムの理解促進と地域の魅力再発見
事務局との連携によって広く情報提供ができる

【エコツーリズムが飯能市にもたらした効果】

①環境の保全と教育

- 新たな自然保護の形と環境意識の醸成
環境教育の場の提供（市内小中学校との連携）
例）竹の間伐で里山整備 外来生物の駆除

②観光振興

- 新たな訪問者の誘致とイメージUPとブランド化

③地域振興

- 新たな交流と地域への誇り、愛着を育むことによる地域の活性化

【令和4年度の実施状況】

登録団体 33 ツアー実施団体 24

ツアー企画数 193 実施ツアー数 149 ツアー参加者数 1,433名

市民団体 47%

全体の約70%は利益を得ること以外の目的を重視している



【考 察】

市域全体で市民と行政が一丸となって自治体を盛り上げていく姿勢と仕組みに感心するものである。

強いマグネット効果のある観光資源がなくとも知恵と努力で市外・県外からの来訪者を増やすことができることを証明していた。

本市においても「まち」を基盤にした市民主体の取り組みは存在している。また、市民によるまちの魅力を発掘した「岡崎100景」の取り組みがある。こうした既存の取り組みをうまく活かして市民協働による賑わいへの昇華が期待できると考える。

まだまだ擦れていない観光地である本市のアフター大河を見据えた観光施策のひとつとして、エコツーリズムの取り組みを検討されることを期待するものである。

【同行者の所感】

- ・飯能市のエコツーリズムは都市近郊の里地里山モデルとして、岡崎市の中山間地域での取り組みの大きなヒントとなる。地域にある伝統行事や自然や建築物をエコツアーにして、資源保全や文化継承に繋げている。地域のありのままを地域の人が案内する。

自然あふれる岡崎市は、エコツアーを実施できる。現在、学校の校外学習や遠足など環境教育として行われている既存の取り組みをエコツアー化することは、市民に幅広く参加してもらう、また都会からの参加者に体験型観光として楽しんでもらうなど、岡崎観光地の一つの目玉になることは間違いないと意見する。

旅行会社のオプションツアーとしてエコツアーを紹介するのも効果的と考える。

旅行会社、地域（エコツアー主催者）、観光協会が連携し、岡崎市の魅力溢れる観光ツアーを作っていく体制づくりを要望する。

岡崎版エコツアーに関して、観光親善大使の東海オンエアさんのYouTube発信も併せて要望したい。

- ・住民参加型のエコツーリズム、メニューを見ると魅力的で面白そうなものがいくつかあった。例えば、住民の自宅の薔薇の庭でのお茶会開催や、地域のお祭りなどの伝統行事の体験ツアーなど。市外の人わざわざ電車に乗ってやって来る。小中学生が遠足や社会見学の一環として利用をすることもあるという。

現在、民間の旅行会社においても、「体験型」のツアーがヒットするのだという。ただ、その観光地に行くだけではもの足らず、さらに、その地で体験できる何かを求めるといふニーズがある。飯能市のエコツーリズム事業は、まさにそこと合致した事業であり、地域住民の力を無理せず活用している好事例であると考えます。

岡崎市においても、城下町体験ツアーや、職人体験ツアーなどを社会実験として提供したところ、大変に人気があったという。岡崎市は森林地区、城下町、田園地区、川辺な

ど体験と織り交ぜて売り込みができるものがたくさんあると考える。外部の視点を入れながら、本市の強みをいかしたエコツーリズムが展開されることを要望する。

子どもの放課後居場所づくり事業及び新座っ子ぱわーあっぷくらぶについて

同行者 野本 篤 前田 麗子

平成14年から①子ども達の休日の学習・スポーツ・体験活動の場として安全・安心な居場所を確保、②地域のボランティアを活用し地域教育力の活性化を図る、この2点を目的として取り組まれた。第一土曜日、第三土曜日の午前中に市内16小学校と児童センターに、令和4年は27クラブ開設され、465人が参加した。

令和4年度新卒つ子ばわあつぶくらぶ一覧

会場小学校	クラブ名	教材科目	対象学年/定員
大相模小	プログラミング	必要に応じて集合	4～6年/20 (現状: 10) (当初: 10)
西郷小	お茶	発表会時に集合あり。2,500円程度	1～6年/10
内郡小	悠太郎 (体育チャンピオン)	必要に応じて集合	1～6年/20
片山小	T シンシ	年間1,200円	2～6年/18
片山小	卓球	必要に応じて集合	4～6年/20
片山小	お茶くらぶ	必要に応じて集合	1～6年/10
若冲小	いりばな (毎月課)	材料費あり	1～6年/20
八戸小	日本舞踊 ★	必要に応じて集合	1～6年/20
八戸小	習棋	必要に応じて集合	1～6年/15
北山小	まねばーさんど	お茶をのむく食費	1～6年/20
赤石小	ソフトバレーボール	お茶をのむく食費	1～6年/30
赤石小	クラウチング ★	必要に応じて集合	1～6年/20
野矢小	手紙のたねくらぶ	お茶をのむく食費	1～6年/25
野矢小	算数選手	お茶をのむく食費	1～6年/20
野矢小	ラケットア ス		1～6年/30
大井町小	ソフトバレーボール	年間500円	1～6年/25
品川小	色色なび(音楽、お茶)	月々100円	4～6年/20
東野小	バドミントン	年間1,500円	3～6年/12
栄小	お茶くらぶ	必要に応じて集合	1～6年/10
岩瀬小	漢字マインドゲーム	お茶をのむく食費	1～6年/30
岩瀬小	なごのくらぶ	持ち寄り100円等 他の施設によって持ち込みあり	4～6年/30
津南小	おひめあかしはじ	持ち込み1,500円(材料費あり)	1～6年/30
陸奥小	バドミントン	必要に応じて集合	4～6年/12組
陸奥小	お茶くらぶ	必要に応じて集合	1～6年/10
新井小	書道	必要に応じて集合	4～6年/10
鎌倉小	お花のメロメロ	約800円 以降お茶1杯につき500円	3～6年/15
先登センター	こぎつKICK	必要に応じて集合	4～6年/30

※★マークのあるクラブは、令和4年4月1日現在で満5歳以上の子どもも参加可能なクラブです。

※、活動内容の開催は、市役所及び市内公共施設に設置する申込案内をご確認ください。

学校と各クラブとの調整において、学校内の備品等は日常教育に影響のない程度で利用できる。学校のカギの開閉はシルバー人材への委託であり、土曜日に、新座っ子ばわーあっぷくらぶ関連で教員は出勤し

2 子どもの放課後居場所づくり事業

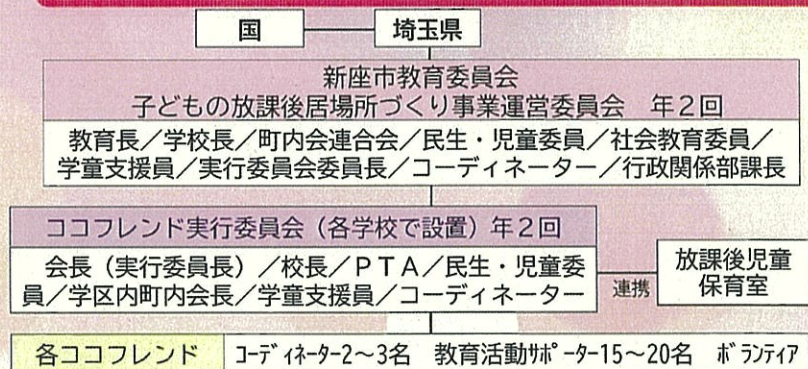
事業の経緯は、放課後児童保育室（学童）の需要が年々高まり、大規模化・狭あい化の解消に向けた取り組みが必要となった。土曜日の居場所づくりとしては「新座っ子ばわーあっぷくらぶ」があるが、放課後児童保育室（学童）ではまかないきれない平日の放課後の居場所の提供も必要。そこで、子どもの放課後居場所づくり事業が開始された。

(1)事業概要

- ・愛称 「ココフレンド」。(放課後この場所(ココ)に來れば、たくさんの友達(フレンド)に会えるよ。)
- ・実施場所 ココフレンドスタッフルーム(主に空き教室)、校庭、体育館、図書室などを学校と調整して使用
- ・実施日 原則給食のある日は、放課後～午後5時(冬期は4時半)。長期休業日は、午前8時45分～午後4時半(1日を通して参加する場合は弁当持参)
- ・対象児童 1年生～6年生(学童に入室している児童も参加可能)
- ・申し込み手続き 年間登録料1,000円と申込用紙の提出
- ・活動内容 放課後～午後3時半、スタッフルームにて「学習の時間」。午後3時半～午後4時45分は校庭・体育館・スタッフルームにて「遊びの時間」としている。



子どもの放課後居場所づくり事業 組織図



(2)ココフレンドの実際の活動



参加の流れ

- ①受付・・・参加カードを提出
- ②名札・・・自分の名札をつける(学年ごとに色分けし出欠の確認)
- ③マグネット・・・自分のいる場所に自分の名前マグネットを動かす(スタッフルーム・体育館・校庭など)

(3)活動の様子



もともとは学童受け皿の不足を補う目的であり、2校から始まったが現在はすべての学校にココフレンドがある。「児童を預かる」学童とは異なり、ココフレンドはあくまでも居場所の提供であり、定員はなく全ての希望児童を受け入れる。児童は放課後の学校を「公園」のような感覚で利用する、そして地域ボランティアの人達とのつながりが生まれるイベントも開催される。

(4)他団体との連携



様々な団体との連携により、学年を超えた異学年交流だけでなく、学校教育にはない体験を通じ、地域との関わり・つながりの交流もある。部活動のような放課後の過ごし方に近い種目もあり、体験の場・放課後の居場所の一つとして児童・保護者の満足度は高い。

地域だけでなく、大学や民間企業等との連携は、より専門的な体験が可能になる。大学生は専門課程の実習、また企業は児童にまず体験してもらい、興味を持ってくれたら運営する教室(有料)に入ってもらふ足場にもなる。

課題としては、学校の負担、人材の確保、活動教室の確保、学童とココフレンドの違いについての保護者の理解不足があげられる。

所感

岡崎市において、教員の長時間労働改善のために今後部活動をどうしていくのかの議論が続いている。しかし保護者からは部活動を継続してほしい、また仕事の都合上子どもが早く帰ってきて部活動と同じような経験を子ども達に与える事ができないとの意見もある。今、公園では「ボール遊び禁止」「大声で騒がない」など、子ども達のための公園機能がなくなっている。また、駄菓子屋など、いわゆる「たまり場の商店」もない。子ども達は放課後にどこで遊べばいいのか。

岡崎市において、学童や子どもの家の施策で放課後の対策を行っているが、広いグラウンドや地域の人とも交流を図れる学校そのものを活用する新座市の取り組みは大変参考になる。

放課後、学校で過ごすことに子ども達や保護者の安心感が高い。

新たな施設を作る必要はなく、また校内の空き教室や図書室、体育館を利用することで雨天でものびのび過ごせる居場所となる。教育委員会とこども部、また市民協働など、市役所内の各部各課が連携する必要があるが、子ども達の放課後居場所づくりのため、また公共施設の利用促進のため学校そのものを活用した放課後居場所づくりを提言する。

そして、その居場所づくりが地域部活動を形にしていく基礎となると考える。

【同行者の所感】

- ・公的な学童施設の容量を超えてしまうという背景から、学校終わってから17時までの子ども達の居場所づくりの取り組みを学んだ。

校舎内の特別教室や体育館や校庭を利用して、地域のボランティアによってスポーツや工作などの企画を保護者に低廉な負担金で行っていた。

そもそも、教育と子ども関係は担当が別れているが、課題に向けて協力し合う体制に感心する。また、地域住民や民間団体によるバラエティ豊かな体験や学びが提供され、子ども達にとっても関わる地域の大人にとっても有意義な時間となっていることが魅力と感じた。

しかし、少人数学級の実施により空き教室が無くなっていくことが、事業を運営する上で大きな課題であると言える。現在では、市内17校で実施しており、その中の9校は既に民間事業者へ委託しているということである。

国や県の補助金制度があり、積極的な活用をしている。

本市においては学区によって、子どもの数の増減や居場所となる施設等に違いがあると思うが、ハードとしての容量を超えてしまうような場合は、課題の解決に向けて、こうした事例を参考に教育及び子ども関係部局の連携をもって対応されることを期待するものである。

- ・放課後のこどもの居場所づくり事業、ココフレンドの視察をしてきた。学童のように預か

るという概念ではなく、定員もない。利用の申し込みがあり、希望をすればだれでも利用できる。学校教室の空き教室を利用しての事業であり、放課後の学童不足解消と子供の居場所づくりをなんとかしなければならない、という当時の教育長が旗振り役となったため、今でもココフレンドの実行委員会の構成員は教員 OB などが複数在籍しボランティアとして活動していることから、学校側との調整、連携も取りやすいとのこと。

岡崎市に限らず、今の子供たちの居場所は一体どこにあるのだろうか？と考えることがある。ネットなどのバーチャルな世界の中かもしれないが、子供時代は、やはりリアルに体感をもって経験をすることは人生において必須である。子どもと保護者にとって安心安全な場を提供しており、地域の人が習い事を教えてくれる、また、地域の学生が勉強を教えてくれる。学校施設の空き教室を使うことは管理上困難であると思うが、子どもの福祉向上のために知恵を出し合い、実現可能になることを期待したい。

視察報告書

報告者 前田麗子

同行者	野本 篤、 野々山 雄一郎
視察日時	令和5年4月26日
視察先 概要	東京都港区（民間） 株式会社 MetaLab（株式会社 Brave group） メタバース空間にある学校「ME キャンパス」の取り組み
視察項目	1. 事業の概要 「ME キャンパス」の取り組み 「学び」を妨げるハードルをなくし、誰もが好きなことで活躍できる未来をつくる、をコンセプトに、居住地等の理由で学校に通うことが難しい学生に対し、バーチャル空間の学びの場を提供している。授業の形態やプログラムを工夫することで、自分のペースで学ぶことができるような仕組み。 2. 事業の経緯、背景について ブレイブグループが運用する、仮想空間「メタバース」を活用した教育事業。子会社を通じて「ME キャンパス」を開いた。広域性の通信制学校として、山口県で松陰高等学校が認可を受けているため、メタバース空間での学校でありながら、対面指導を受けることで高卒資格を取得できるという特色がある。全国に40拠点の校舎があり、各地に学習拠点をもち、大阪、山口の校舎は直営でそれ以外は委託となっている。委

[illegible]

取り組みの効果と実績について

1年コース	誰でも入学できる1年コース
3年コース	通信制の松陰高校（山口県岩国市）に同時入学する3年コース。対面指導を受けることで高校卒業資格を取得できる。

実際に活躍するクリエイターが努める。空間デザインやCG製作など実践的なスキルを教える。企業やアルバイト先の紹介などを通じて就職も支援する。メタバース上でスタディコーチ（東大生が個別指導をする場合もある）。

カウンセリングサービスについて

	カリキュラム提供だけでなく、実際にクリエイターとして活躍している人材がアバターとしてサポートをし、専門的な相談、メンターサービスを行っている。また、カウンセリング相談（コミュニティーマネジャー）ができる人も配置して対応をしているという。学校の特質上、コミュニケーションが苦手な生徒もいる、また外見に対するコンプレックスを持つ生徒もいるという。メタバース上でアバター同士がコミュニケーションをすることで、対面のコミュニケーションが苦手な生徒も学習が受けられる環境。段階を踏みながら社会に出るための実践的な取り組みをしている。
課題と展望	誰もが学びの機会を得られることは非常に大切である。住む場所、自身のパーソナリティなど様々な事情により学校に通えない子供たちに対して、メタバースで学びの場を創出した事業である。学校法人と提携したことにより、3年間所定のカリキュラムを修了すると高校卒業の資格が得られるということ。バーチャルの世界のビジネスで活躍できる人材の輩出も期待できるところである。 視察調査を終えて感じた課題感は、まずサービス事業の周知、内容の理解であろう。メタバース自体、世の中に登場して間もない概念であり、そのこと自体が理解できない人々が多い中、さらにそこで学校経営がなされているということは、全く理解ができない人々がいるであろう。しかし、確実に未来に訪れる世界では、メタバースで活躍できる人材育成が必要となってくる。デジタルネイティブ世代である、これからの子供たちに適切な学びの機会を提供していくことは、今後の岡崎市においても必要な考え方であろう。自治体だけの開発研究だけでなく、今回視察調査をしてきたような民間との連携もしっかりとしていくべきであると提言する。
同行者の所感	・現在そして未来の教育現場を考えた時、メタバースの学校を選択肢の一つにすべきと考える。すべての世代の学びなおしの場合として、学校に來れない人達のための学びの場として、また地域的や時間的に学校に通えない人達の学びの場としてメタバースの学校は必要である。 個人的に、普通科高校のカテゴリーが大学受験のための教育に偏っていると感じていた。そしてその普通科高校を目指す高校受験のための教育が中学校では多かれ少なかれ行われている。受験科目ではない内容を学びたい学生にとって現在の教育は窮屈ではないか。 メタバースの学校では、自由度の高い学習環境で創造性や問題解決能力を養い、異なる文化、異なる言語の人々との交流が可能になり、場所や時間に縛られずに柔軟性のある教育が実現する。また現実的に実践できる学習内容も可能になり、教育の新たな可能性を拓くことができる。 岡崎市では GIGA スクール構想での一人一台タブレットを活用し、教育の可能性が広がっている。デジタル教材については、教員より子ども達の方が積極的に活用しているというような話も聞く。間違いなく今以上のデジタル化社会は到来する。

教育委員会には子ども達の未来のため、まずはメタバースの学校の調査研究を進めるべきと意見する。

・民間企業によるメタバース空間にアバターで提携する通信制高校に入学して高校卒業資格を取得する取り組みである。

仮想空間において、なりたい自分を作り自宅にしながら学ぶことができる。

動画で学べばいいじゃないか？とも思うが、それではゲーム性の楽しみやコミュニケーションもない。

空間上では匿名性も保たれるから直接のコミュニケーションが苦手な生徒にもハードルが下がると考えられる。

私も通信制で短期大学を卒業した経験がある。アナログな時代であったのでオンラインで学べるのは、ただただ便利でいいものだと感じる。多様な学び方の展開は、年代や環境を問わず、学びたい人を後押しすることにも繋がる。

そもそもメタバースというものをあまり理解していなかったので具体的な取り組みから知ることができて勉強になった。

自治体とメタバースのこれからの活用には大きな可能性を感じる。新たな切り口から利便性の向上・賑わい創出・学びの促進から多世代の活躍、本市独自のコンテンツ活用による税収につながる取り組みを提案していきたい。